

「さぼーとほつと基金適用に！
被爆の実相を後世に伝える
DVD作成事業」が始まる

札幌市の市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほつと基金)に「被爆の実相を後世に伝えるDVD作成事業」で応募したところ、50万円の助成金が交付されることが決定しました(4月28日付)。

オープニング部分を広島・長崎の原爆被害の概要を写真を使いながら、真ん中に絵本『北の里から平和の祈り』ノーマ・ヒバクシャ会館物語』の朗読を、エンディングに作家の思い、被爆者の証言を入れる、という構成になっています。

現在ボランティアの方を含めた3名で構成を詰めており、近々業者に発注する予定です。絵本朗読は本郷弦さん(無名塾の俳優、彫刻家本郷新さんのお孫さん)、お母さん(柳川慶子さ



ん)の「この子たちの夏」の朗読を聞いて育ちました。

全編 22分30秒の予定です。が補助金の3倍の製作費がかかる予定です。改めて募金を呼びかける予定ですが、特段のご協力をお願いします。

学校での語り部始まる

札幌市の小中高校を対象に2017年から始まった被爆者派遣事業。今年は市内の私立の学校も対象に呼びかけられ、すでに26校が希望に名をあげています。4月28日にはさつそく北星大附属高校で第52回の「憲法を学ぶ会」の一環として被爆者が語りました。

宮本須美子さんは名古屋空襲で父親を失ったこと、連絡を受けて母親がかけつけた時はすでにお骨になっていたこと、母の親戚を頼って長崎に疎開、そこで原爆に遭遇します。母親は子どもたちに悲惨な現場を見せたくなかったのでしょう、薄暗くなった夕方に大八車をひいて一家5人が避難、それでも船が出ていなかったため爆心地を通らざるをえなく、大川の橋の下にはたくさんさんの避難



民が川にあふれていたのが目にやきついています。「核兵器は絶対にいけない。核兵器で威嚇して攻撃を繰り返すロシアのやり方は許されない。信頼を築き話し合いで事を解決するのが憲法の精神」と、約800名の全校生を前に話しました。被爆者派遣予定校、5/2現在、北星学園大付属高、常盤中、平岡中、太平中、札幌南高(定時)、大通高、伏古小、東陵高、手稲高、東海大付属高、真栄中、厚別高、幌東小、豊園小、新陵小、発寒小、清田緑小、あいの里東小、南郷小、東園小、あいの里西小、新琴似南小、中の島小、星置東小、福移小、教育大附属中

感想文より

何度訪れて拝見しても強く胸がしめつけられるような気持ちになります。そして原爆投下がなければ、亡くなられた方々がどのような人生を送ったのだろうと考えると悲しくなります。私自身、大切な人生を、亡くなられた方々の分まで幸せに楽しく、毎日充実した生活を送ろうと決意を新たにしました。

初めて拝見する写真も多かったです。札幌にこのNo Moreヒバクシャ会館があることは本当に貴重ですね。世界各地の被爆者の写真もありとても勉強になります。(ヒロシマは行きました。ナガサキは未見なので、訪れたいです。)
ジオラマを見て(4月3日)
僕は55歳のおじさんです。プラモデル作りが好きなので札幌市のジオラマに引き付けられました。人類はあの瞬間を二度と繰り返してはいけません！



り返してはいけません！
9歳です。核せんそうをしないで核のないせかいにしてへいわにくらいたい！
9歳の子供の母親です。とてもこまかく作られていて、くわしくて見ごたえがありました。

スケジュール

7月20、21日に

被爆の証言と原爆展

9回目となる「被爆の証言と原爆展」、今年も道庁1Fロビーで、7月20、21日に開催します。二世の皆さんも話します。国連原爆展のパネルも展示します。期待していて下さい。

8月6日の追悼会

実行委員会開かれる

1965年から半世紀以上にわたって続けられている原爆死没者北海道追悼会。去る6月7日、追悼会を主催し支えてきた諸団体が集まり、実行委員会が開かれ、当日の持ち方、それに向けた取り組みを話し合いました。

